

平成29年度「地域発 元気づくり支援金」事業実施結果(北信地域)

整理番号	主事業区分	重点テーマ	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち支援金 確定額 (円)	講評
1	その他(産業の振興及び雇用の拡大)	しあわせ×2	ソフト	信州中野おごっそフェア実行委員会	信州中野おごっそフェア	中野市防災広場において、中野市を中心とした信越自然郷の農産物の魅力を発信するため出店者を募り販売する。また同日開催の小布施六斎市とシャトルバスで結び誘客効果を高める。 ①会場設置、広報、シャトルバス、コンテスト等	18,092,951	901,000	・生産者と事業者が地域資源を使って新たな商品を作り出す「ロクジカフェ」(6次産業化+カフェ)の取組は、地域内の食材や技術をブラッシュアップし、新たな商品開発を促す手法として効果が期待できる。 ・イベントに係る経費をなるべく自前で調達できる仕組みを構築し、継続していけるようにしていくことが求められる。
2	商業の振興		ソフト	中野市商店会連合会	ドキドキ ハロウィン	普段商店街を利用しない若い世代に商店街を知ってもらうためのイベント(ハロウィン仮装パレード)を行い、商店街や個店に親しみを持つきっかけづくりとする。 ①会場、イベント経費、広告、警備	736,541	524,000	・来場者数は目標の半分にとどまった。 ・支援金活用3年目のため、今後は運営経費を補助金以外から調達する仕組みを構築することが求められる。また、イベント内容を工夫するなど、今まで以上に様々な人と協議しながら、来場者を増やす方策も求められる。
3	環境保全、景観形成		ソフト	東山観光協会	東山公園桜復活事業	中野市内の桜の名所として市民に親しまれている東山公園だが老木化が目立ってきている。公園整備を行うメンバーも高齢化しており、中野市の観光資源を再生させる観点からも広く桜の木のオーナーを募集し補植するなど公園一帯を整備するとともに地域の活性化を図る。 ①樹木診断、枯れ枝撤去、施肥	1,430,160	648,000	・樹木診断の結果、新たな桜の移植より既存の桜の樹勢回復を優先する必要があるとして、当初計画を変更して施肥等を行った。今後も地域住民主体で環境美化活動を続け、将来的には当初計画どおり桜のオーナー制度の導入など、地域への愛着心の醸成を図る取組が行われることを期待する。
4	特色ある観光地づくり		ソフト	信州なかの観光協会	信州中野の歴史・自然を体感できる観光情報発信事業	古地図等から中野市陣屋周辺の歴史的な街並みを再現しWebサイトにアップするほか、まち歩きガイドの養成、サイクリングマップ作成を行い、新たな視点からのまち歩き観光を推進する。 ①Web改修、まち歩き等マップ作成、ガイド研修	1,152,190	405,000	・GPS機能を使って中野市の今と昔の歴史の流れを体験できるようにした取組は、地域の魅力を高めるものであり評価できる。今後は、そうしたサービスを活用しながら、なるべく多く、長く滞在してもらえるようなサービスを企画・発信していくことが求められる。
5	教育、文化の振興	歴史継承、移住促進	ソフト	信州中野ふるさと交流団	第24回ふれあい体験学校in坂戸	埼玉県坂戸市と中野市(旧・豊田村)の子ども達の交流事業を平成5年から毎年行っている。H29は坂戸市への訪問となるが、初めてキャンプを設営することにより子供たちの協調性や自主性を養うとともに、防災体験学習を行うことで両市の絆を更に深める。 ①バス等交通費、キャンプ場等使用料、テントほか備品購入	883,139	613,000	・平成5年から、中野市と坂戸市の子どもによる交流を継続的に実施している点は高く評価できるが、支援金事業は毎年ブラッシュアップが求められるため、年に1回キャンプを両市交互に行うだけでなく、歴史・文化等様々な面で両市の交流が図られることが期待される。

整理番号	主事業区分	重点テーマ	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち支援金 確定額 (円)	講評
6	その他地域の元気を生み出す地域づくり	地域資源		高社山を世界に発信する会	高社山を中心とした地域の賑わい創出事業	高社山エリア(中野市・木島平村・山ノ内町)で連携して高社山及び山麓地域の景観、文化など発信し、地域の知名度を高める。 ①開山祭・登山講師、広報、ドローン撮影、チェーンソー等購入	475,152	339,000	・開山祭など高社山を地域内外に広める取組をし、また、環境の整備を行っている点は高く評価できる。 ・高社山エリアの四季をドローンにより空撮し、動画をHP等に公開しているが、今後はこうしたツールによって広くPRし、地域資源である高社山の魅力を発信して欲しい。
7	教育、文化の振興	歴史継承、移住促進	ソフト	特定非営利活動法人アートミュージアム・まど	特別企画「信州ゆかりの現代作家」展	開館10周年を記念し、長野県ゆかりの作家展を企画し特別講演を行う。また講演会に合わせ地元高校美術部の生徒の作品を持ち寄り合評会を開催する。 ①作品借用料、作品運搬費、講師謝金、広告等	797,968	607,000	・県出身の作家による企画展やギャラリートークは、高いレベルの芸術をその背景や作業方法について深く学ぶきっかけとなるもので、評価できる。 (企画展:来場者目標の500人達成) (ギャラリートーク:定員50名を超える70数名の参加) ・また、地元高校美術部員等への作品合評会は、日本を代表する作家陣と交流し、指導を受けられる貴重な機会であり、生徒はもちろん高校教師からも継続実施を要望されるなど、地域の今後の文化活動を促進する高い効果があったと評価できる。(高校:4校、美術部員:27名参加)
8	保健、医療、福祉の充実	福祉・子育て	ソフト・ハード	株式会社アルビスファーム 信州なかの	農福連携による就労継続支援A型事業	障がい者の自立支援に向け、中野市農福連携プロジェクトの趣旨に賛同した企業が就労継続支援A型事業所を立ち上げる。地域の農業従事者と連携し、遊休荒地を活用し需要の高い農産物を栽培、販売する。 ①農業サポーター委託、②事業所増築、車両購入	19,714,845	8,449,000	・障がい者の就労継続支援A型事業所として事業所や就労環境の整備、技術指導を行った。 ・農業サポーターなどの支援体制が整っていることは障がい者が安心して就労することができる環境として評価できるため、今後は、計画に沿って農作物の収量増加を図り、障がい者の所得向上や事業所の継続運営に当たってほしい。
9	安全・安心な地域づくり		ソフト・ハード	中野市	糸魚川市復興応援コンサート	中野市と糸魚川市は「カチューシャの歌」を縁に平成元年から知音都市交流を続けているところだが、平成28年12月に発生した糸魚川市大規模火災の復興を願い、中野市消防団音楽隊が中心となりコンサートを行うとともに、合わせて楽器を整備し、消防団音楽隊の活性化を図る。 ①広告等、②楽器購入	1,526,050	412,000	・H28年に大火災に見舞われた糸魚川市と知音都市である中野市が、音楽を通じて市民の防災意識の高揚と、糸魚川市の復興チャリティーを兼ねたコンサートを開催した点は評価できる。 ・アンケート結果からも、市民の防災意識の高揚に一定の効果があったと評価できる。
10	地域協働の推進		ハード	中野市	手づくり農村支援事業	農村地域における高齢化や後継者不足による農作業等の負担軽減と効率化を図るため、地域住民が協働して行う農道・水路の補修・整備の直接施工や維持管理活動に必要な材料支給や重機の提供等の支援を行う。 ②農道舗装8地区、水路改修10地区	10,845,987	5,410,000	・業者施工よりも少ない経費で施工でき、住民主体で作業したことによる愛着心を持った管理ができる点は評価でき、今後も継続的な自立活動が期待できる。
11	教育、文化の振興		ソフト	市民第九コンサート実行委員会	市民第九コンサート事業	飯山文化交流館の開館を機に、近隣の住民を集め市民による第2回第九コンサートを開催するとともに、姉妹都市である大阪市との交流も行き、文化芸術の振興を図る。 ①オーケストラ委託費、合唱指導者等謝金・旅費、会場使用料、広告宣伝費、著作権使用料	4,732,648	1,016,000	・昨年に引続いての市民協働による第九コンサートに加え、飯山養護学校へのアルプス地域など、普段、文化芸術に触れる機会が少ない方たちへも文化芸術の普及を図った点は評価できる。 ・H30年度は、当初目標であるH31年度からの「飯山音楽祭」への昇華を見据え、第九だけでなく、幅広い音楽を市民が楽しめるイベントにしてほしい。

整理番号	主事業区分	重点テーマ	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち支援金 確定額 (円)	講評
12	特色ある観光地づくり	広域観光	ソフト	一般社団法人信州いいやま観光局	信越自然郷エリアにおける日本版DMO推進事業	信越9市町村の中心となりマーケティング手法などを活用、効果的な販路拡大などを行い、飯山駅開業後の広域観光事業を推進する。 ①JIR広告掲載、信州DC商品造成、信越自然郷HP更新、旅行誌広告掲載、モンベル提携料等	6,500,000	5,200,000	・DMO候補法人として信越自然郷そのものやその取組について、ウェブページの改善や雑誌掲載を通じて情報発信、周知を行った。 ・今後は、マーケティング調査結果などを踏まえ、食やアウトドア、リラクゼーション等の信越自然郷が掲げる3つの価値について、9市町村と協働した具体的な事業の推進が求められる。
13	特色ある観光地づくり	広域観光	ソフト・ハード	一般社団法人信州いいやま観光局	信越自然郷におけるサイクルツーリズム促進事業	信越自然郷エリアを周遊観光するため乗り捨て可能なレンタサイクルシステムを構築するとともに、ガイド人材育成のための講習会を開催する。 ①乗り捨て施設看板等、Webサイト等情報発信、講習会経費、講師謝金、②トレーラー	3,251,318	2,509,000	・観光客から要望の高いアクティビティの整備が求められる中、乗り捨て可能なレンタサイクルシステムを市内外の9箇所に設けた。また、自然や食、文化を感じられる6つのサイクリングルートを設定し、WEBサイトで発信(日本語・英語)するなど、信越自然郷エリアにおけるアクティビティ環境の整備が図られた。 ・今後は、こうしたサービスが利用されるよう、レンタサイクルの発信と利用者を増やす取組等が求められる。
14	特色ある観光地づくり	広域観光	ソフト	千曲川・高社山SEA TO SUMMIT実行委員会	千曲川・高社山SEA TO SUMMIT事業	モンベルが提唱している、自然界の水の循環を体感するプログラム～海や川(SEA)から山頂(SUMMIT)へ自力で進み自然を考える～環境アウトドアプログラムを実施する。 ①大会運営費、シンポジウム会場、講師謝金、広告費、プロモーション映像制作	8,380,529	1,818,000	・SEA TO SUMMITとして、千曲川・高社山ステージで初開催し、アワードを受賞したことは、この地域がアウトドアアクティビティの聖地となり得ることの表れといえる。また、新たな旅のスタイルであるNAGANOモビリティへも通じるもの。 ・今後もモンベルから運営ノウハウを習得し、最終的には地域独自の開催を目指しており、アウトドアアクティビティによる新たな旅行商品化などが期待できる。 ・今後は、高社山エリアの他市町村を実行委員会に加えするなど、地域一体となった取組にも期待。
15	特色ある観光地づくり	地域資源	ソフト・ハード	北竜湖観光協会	第2回クラフトフェア北竜湖開催事業	飯山市北竜湖を舞台に芸術文化を発信するイベントとしてH28に実施したところ多くの来場者があった。H29は新たに写真絵画コンテストも企画し北竜湖の魅力をさらにPRする。 ①広告宣伝費、会場使用料、入選者懸賞、②展示ボード等	2,919,924	2,194,000	・支援金活用2年目となるH29年度は、クラフトフェアに加え、開催地である北竜湖にちなんで「ベストハートコンテンツ」の実施、前年度の評判や反省を生かしたフードコーナーの充実など、確実にステップアップし、来場者数、出展者数も増加するなど、地域の新たなイベントとしての地位を確立した点は高く評価できる。
16	保健、医療、福祉の充実	福祉・子育て	ソフト・ハード	株式会社フジすまいるファーム飯山	障がい者総合支援法に基づく就労継続支援A型事業	廃校となった岡山小学校の給食室等をそのまま活用し加工施設とし、「就労継続支援A型事業所」を立上げて2年目となるが、引き続き遊休農地を開墾し伝統野菜の坂井芋等を栽培、農産物の加工・販売を行うことにより、農業の振興を図るとともに障がい者の自立を支援する。 ①職員研修費、トラクター等レンタル、②農業資材等、開墾費	4,082,304	2,780,000	・支援金を活用した障がい者の施設外研修や農業には計画どおり取り組んだものの、農業技術指導や農繁期の就労先の確保などは、関係者のサポート・協力なしには進まないため、早急に関係者と協議し、体制を整える必要がある。障がい福祉サービス事業所として障がい者を雇用する責任ある対応が求められる。

整理番号	主事業区分	重点テーマ	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち支援金 確定額 (円)	講評
17	その他地域の元気を生み出す地域づくり	歴史継承、移住促進	ソフト・ハード	北原区ふるさと暮らし支援委員会	北原区くるみによる元気な地域づくり事業	世帯数30余りの高齢化が進む過疎集落において、荒廃農地を活用し地域の活性化を図るべくH20に植樹したくるみの木が収穫の時を迎えた。くるみの木オーナー制度をコミュニティビジネスとして確立するため必要な整備を行う。 ①収穫用資材等、洗浄機、乾燥棚設置	756,720	592,000	・平成20年度にくるみのオーナー制度を活用してくるみの苗を植えて以来、地域住民によって継続的に育成されてきたくるみが収穫できるようになったため、収穫祭を実施。オーナー20名中8名が参加し、地元住民と交流するなど「第2のふるさと」として関係人口の創出が図られ、今後の移住への足掛かりとなった。 ・収穫したくるみを販売に繋げるため、地域運営組織「きたはらスタイル」を立上げ、商品名やデザインを専門家と相談しながら決め、商品は道の駅で試行販売を行った(H30年度から本格販売予定)。 ・これらの取組は、コミュニティビジネス、関係人口の創出モデルとして高く評価できるものである。
18	農業の振興と農山村づくり	地域資源	ソフト	JAながの花弁共撰部会シャクヤク研究会	「みゆきのシャクヤク」プロモーション事業	北信地域はシャクヤクの全国一位の生産量を誇る産地でありながら知名度が低いため、シャクヤクの魅力や生産者のこだわりをプロモーションビデオとして映像化し卸売関係者や一般向けにPRする。 ①プロモーション映像制作、花摘みイベント経費	606,814	469,000	・シャクヤクの一大産地であるみゆき地区の魅力を内外に発信するため、PV作成や花摘みイベント、飯山駅での展示を行った。 ・特に花摘みイベントは、シャクヤクの花が咲いている時期に行われるため、地域内外の人に産地であることのPRができ、新規栽培者が2名出るなど効果にも表れているといえる。
19	地域協働の推進		ハード	飯山市	協働のむらづくり事業	住民と市が協働して農林業用施設を整備することにより、事業費を圧縮、施設の維持管理作業を軽減し、農林業生産の効率を高める。また、協働作業を通じて住民同士の交流、施設管理意識の向上を図る。 事業実施予定39箇所、うち支援金対象:農林道舗装等11箇所、水路改修15箇所 ②原材料購入費	6,623,490	3,415,000	・地元の住民が自ら考え実施した点が評価できるし、業者施工に比べて60%ほどの経費で施工できたなど、経費節減にも寄与している。分担金も発生するため、事業は地域一体となって行われ、主体的な管理が期待できる。
20	環境保全、景観形成		ソフト・ハード	ABMORI実行委員会	「後世に残そう森・水・いのち」志賀高原森林再生事業	県と山ノ内町が中心となり、H26から志賀高原の閉鎖スキー場の森林再生を目的とした植樹活動「いのちを守る森づくり」を実施している。H28はこれまでの稚樹採取、育苗、植樹、モニタリング調査に加え、サテライト植樹として部活動遠征時に合わせ植樹を行い交流する。 ①育苗～植樹事業バス費用、モニタリング・バス費用、サテライト・バス費用、参加者保険、仮設トイレ設置、 ②植樹事業・整地	10,388,426	3,434,000	・支援金活用3年となるH29年度は、植樹活動に加え、県外でサテライト植樹を行い、植樹活動の周知を図った。 ・今後は、クラウドファンディングなど、補助金以外の資金調達を検討し、継続的に実施できる体制づくりが求められる。
21	特色ある観光地づくり		ソフト	志賀高原ロングライド実行委員会	志賀高原ロングライド	グリーンシーズンの誘客を図るため、標高1,000mを超える山岳地帯に総延長115kmものサイクリングコースを設定、H26から4回目の開催となる。 ①企画一式、調査・準備経費、広告費・告知物制作費、大会運営等	8,388,012	1,038,000	・支援金活用継続3年目事業。H30年度は、スタンプラリー形式の前日イベントを企画し、ロングライド当日ではコース設定上通過できないところへも楽しんでもらえる企画にするなど、グリーンシーズンのイベントとして定着してきていると思われる。

整理番号	主事業区分	重点テーマ	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち支援金 確定額 (円)	講評
22	特色ある観光地づくり	広域観光	ソフト	スノーリゾート 受入観光地協議会	スノーリゾート受入観光地協議会誘客宣伝事業	北陸新幹線開業に合わせスキー場・観光協会・行政で新たな協議会を立ち上げ、H28から誘客宣伝活動に取り組んでいる。H29は関西方面からのエージェントを集め情報交換を行う。 ①バス借り上げ、エージェント交通費等、宣伝キャラバン	1,225,485	775,000	・H30年度は、関西での誘客宣伝キャラバンのほかに、JR西日本やスノーリゾート旅行商品販売会社の商品造成担当者に加えて販売担当者向けに現地視察会を実施し、協議会エリアのPRを行った。
23	環境保全、 景観形成	地域資源	ソフト	山ノ内町雪室利 活用協議会	雪室スノーパル利活用 促進事業	山ノ内町須賀川地区に設置した雪室「スノーパル」の認知度を高めるため夏季限定の雪室コンビニを実施し、地元の野菜など雪室貯蔵品の付加価値を高め、地域の活性化を図る。 ①看板、広告、チェーンソー他雪室設営用備品、貯蔵証明シール	774,417	600,000	・整備後、認知度が低くブランド化が図られていなかった雪室を活用して、期間限定のイベントを初めて開催したことは、利活用を進める第一歩として評価できるものである。今後は、貯蔵品のさらなるブランド化やブランド化に伴う雪室利用の促進など、雪室を通じた地域の活性化を推進していくことが期待される。
24	その他地域の 元気を生み出す 地域づくり	歴史継承、 移住促進	ソフト・ ハード	すがかわ暮らし 応援隊	「見て、聞いて、味わって」地域実感型すがかわ移住体験ツアー	これまでも体験ツアーを企画し移住に結び付いたが、通年で移住希望者を受け入れるため空き家を改修し、実際の生活を体験していただきスムーズな移住・定住につなげる。 ①家賃、光熱水費、既存浄化槽改修費、移住キャンペーン交通費、 ②浄化槽配管工事費	1,760,609	1,369,000	・公共的団体による移住体験ツアーの実施は先進的な取組であるが、企画した全6回のうち4回で応募者が0人となるなど、企画自体の魅力やその周知方法にも工夫や改善が求められる結果となった。今後、民泊事業として通年での受け入れを予定しているが、先進地の視察や成功事例の研究、地域資源のブラッシュアップなどを行い、参加しなくなる事業実施を目指してほしい。
25	地域協働の 推進		ハード	山ノ内町	地域協働で農業に活力 を与えるための施設整備	高齢化等により農業経営の先行きが不安定な中、地域住民が協同で農道等の整備を行うことにより地域のつながりを深め、農業に活力を与え、農村全体が元気になる。 ②農道舗装4地区 原材料費、重機借上料	2,332,803	1,166,000	・農道の舗装作業は非常に労力を要するものであるが、地域住民が協働して取り組むことにより、費用面だけでなく、効率化や安全性の向上など農作業面でもよい効果が表れている。
26	安全・安心な 地域づくり	防災力	ハード	南鴨区防災会	支え合い、助け合い地 域防災力向上事業	消防団の統合に伴い地区ごとに独自の防災組織が立ち上がる中、南鴨区ではいち早く地域防災計画を策定し、実践に移す段階にある。現状の消防機材は使用できない状態のため、女性等にも取り扱いが可能な軽量・小型機材の整備を行う。 ②小型ポンプ一式	529,200	396,000	・区では、区防災会が設立(H29.1月)される前2年間にわたり、区民による地区防災計画づくりに努めてきたことから、区民の防災に対する意識は高く、その点が操作講習会への参加にも表れていると思われる。 ・支援金事業は計画どおり実施されているが、区防災計画の策定や避難所運営マニュアルの独自整備など、支援金事業以外の取組も着実に進められており評価できる点である。
27	特色ある観光地づくり	地域資源	ソフト	木島平村	カヤの平高原 誘客推進 と魅力発信事業	ラジオ番組の企画として森林ウォーキングツアーを開催、カヤの平高原の魅力PRする。 ①ツアー企画運営、告知PR	629,119	436,000	・村の重要資源であり観光振興の拠点でもあるカヤの平高原で、ガイド研修を兼ねたウォーキングツアーを広告媒体と共同で実施したことで効果的な宣伝ができ、定員を上回る参加があったことは評価できる。 ・今後は、収益性のある独自に事業として継続していくことが求められる。

整理番号	主事業区分	重点テーマ	タイプの別	申請者	事業名	事業内容 (主な用途、①:ソフト事業、②:ハード事業)	総事業費 (円)	うち支援金 確定額 (円)	講評
28	農業の振興と農山村づくり	地域資源	ソフト	木島平村産業ネットワーク協議会	木島平酒米ブランド化プロジェクト	栽培が難しく、県内で木島平村だけが栽培している酒米・金紋錦の栽培技術を継承するため調査・分析を行いワークショップを開催するほか、パンフレットを作成しPRを図る。 ①ドローン撮影、映像分析、ワークショップ、パンフレット作成	1,694,102	1,355,000	・ほぼ木島平村だけで栽培されている酒米・金紋錦のPR、シンポジウム、販路拡大イベントを通じて、「金紋錦の産地は木島平村」とのブランドイメージを確立させる取組は、生産者にとっても魅力の再発見になり、誇りを醸成することにもつながるものとして評価できる。
29	森林づくりと林業の振興		ソフト	NPO法人森のライフスタイル研究所	都市住民と地元住民の連携による木島平村カヤの平高原におけるプナの森づくり	木島平村カヤの平高原牧場にある未利用放牧地に、カヤの平高原に実生するプナの苗木を掘り取り、移植。作業は都市部からの参加者と地元住民・高校生で行うほか、プナ玉づくりや北ドブ湿原トレイルなども盛り込み、都市と地元との交流を図る。 ①交通費、講師謝金、募集チラシ作成	820,360	615,000	・支援金活用3年目事業。プナの苗木を掘り取り、移植するという事業自体は3年間変わらないものの、2年目からは下高井農林高校の生徒や地元住民の参加、3年目はそれらに加えてプナ玉づくりワークショップや北ドブ湿原トレイルを盛り込むなど、森づくりを都市住民と地元住民が交流しながら行うという目的は年々ステップアップしており、評価できる点である。
30	産業振興、雇用拡大(観光)	地域資源の魅力向上	ソフト	野沢温泉観光協会	春の街中にぎわい創出事業	(1)「春の誘客キャンペーン」として、春～夏をメインとしたパンフレットを製作し、都内、名古屋市内、大阪市内で配布。 ①パンフレットデザイン、印刷代50,000部  (2)温泉街の中心地で「たけのこまつり」を6/9～6/18までの10日間連続で開催するための備品購入。 ①パイプ椅子50脚、テーブル30台、テント10基、サイドシート20枚	1,075,140	602,000	・信州DCに繋げるため春の誘客を年度当初から行うなど、連続性を持って展開した点は評価できる。 ・特に、6月のたけのこまつりや7月オープンのスポーツ公園などの宣伝は、目標どおりグリーン期や信州DCへの誘客に効果があったものと思われる。
31	地域協働の推進		ハード	野沢温泉村	手づくり農道舗装等事業	農地・林地の荒廃を防ぐため、地元住民が互いに協力し必要な農道舗装等を行い、農作業の効率化と生産意欲の向上を図る。 ②原材料費支給 農林道4か所、水路1か所、集会所駐車場1か所	4,442,633	2,961,000	・農道の整備により作業時の安全性と利便性が確保できた。また、地域住民が自ら整備することで自立意識の醸成が図られた。
32	地域協働の推進		ハード	栄村	農地等国土保全事業	農業従事者の高齢化が進む中、農業用施設の維持管理作業の軽減を図るため、集落等の要望により改修が必要な農道及び用排水路等について、村が原材料等を支給する。 ②原材料支給:農道舗装等4箇所、水路等改修11箇所	2,712,236	1,536,000	・栄村では、役務に加え受益者分担金があるため、事業の規模や必要性、優先度について主体的に判断し、事業後の利用度や満足度が非常に高い。こうした点も特筆すべき点である。